地方自治ここにあり　首長インタビュー

「強く」「優しく」「美しい」美浜町へ コミュニティを大切にするまちづくり

和歌山県初の女性町長　籔内美和子さんに聞く

地方自治の最前線の動きを紹介する首長インタビュー、今回は2月に行われた日高郡美浜町の町長選挙で現職を破って当選、和歌山県で初めて誕生した女性町長籔内美和子さんに町政担当への決意と政策をお聞きします。聞き手は本研究所鈴木裕範常務理事です。

籔内美和子町長

立候補を決断させた子と母親をつなぐ思い

鈴木：和歌山県で初めての女性町長です、皆さんの注目度が高くて大変かと思います。

町長：総会とかいろいろな行事がありまして、挨拶を考えるだけでも大変ですけれども、原稿は自分で書いています。自分の言葉で伝えたいと思っています。

鈴木：お会いする皆さんの接し方はいかがですか。

町長：やっぱり気を遣っていただいています。でも、私、男勝りなので、皆さんによく男前やと言われるんです。

鈴木：そうですか。でも、男前も今回の町長選挙は、様々な意味で決断、勇気が必要だったかと思います。現職の壁、首長への道は女性候補にとって大変高い天井です。その中で籔内さんを町長に押し上げた最大の力は何だとお考えですか。

町長：本当に悩みました、眠れないくらい。私、退職する前に健康推進課で子育ての関係を勉強させていただきまして、今後、少子化の中で、生まれてくる子どもたち、またお母さんたちと、どれだけつないでいけるかということを考えたら、出産をして子育てもしてきたものが分かると感じ、決断したんです。応援したいということで事務所に集まっていただいた女性の方が大変多くいました。そういう皆さんに押し上げていただいたと思っております。

鈴木：お考えに共鳴した女性たちがたくさんいたと。

町長：そうです。もちろん高齢者についても、私の夫は37年間、社会福祉協議会に勤めておりまして、高齢者の施策をたくさんしてまいりました。２人で一緒に退職したものですから、夫の力も大きく、高齢者の方の、私たちを見捨てないでねっていうお声も頂いてまして、その人たちにも応援していただきました。

鈴木：政策の第一は、女性が暮らしやすい地域をどのようにつくっていくか。美浜町も人口減少、少子高齢化の厳しい状況にあるなかで、どう町政を担当していくか、手腕が問われます。キャリアが活かせますか。

町長：キャリアというよりも、住民の皆さんとのつながりでしょうか。私は37年間のうち19年間、住民課におりましたので、住民のほとんどの方とは顔見知りに

わかやま住民と自治
発行／和歌山県地域・自治体問題研究所
和歌山市太田2丁目14-9　太田ビル203号
TEL･FAX 073-488-3127
jichiken@crux.ocn.ne.jp　2019年 6月号
2019年5月25日発行　第309号　（月300円）

目　次

地方自治ここにあり　首長インタビュー
「強く」「優しく」「美しい」美浜町へコミュニティを大切にするまちづくり
和歌山県初の女性町長　籔内美和子さんに聞く …… 1
第8回わかやま住民要求研究集会記念講演⑤
KPI数値の追求より住民と一緒に考え･行動する
京都大学大学院教授　岡田　知弘 …… 5
１人区で、自民党幹事長の地元・御坊で、なぜ、勝利できたのか①
―　全国ニュースになった和歌山県議選御坊市区　―
くすもと文郎はげます会　大川　克人 …… 8

なっております。公だけでは無理なところ、防災でもそうですけれども、住民の皆さんとともにまちづくりできたらなと思っています。

鈴木：町民は何を期待していると思いますか。

町長：スピード感ですね。これは、できない、これはもうすぐできますとか、回答をしていかないといけない。そういう面では、職員としっかりコミュニケーションをとって、リーダーシップもとっていかないといけないと思っております。

鈴木：スピード感のある行政ですね。

町長：はい。

美しい煙樹ヶ浜海岸

まちづくりは コミュニティの構築から

鈴木：町長が掲げる「強く」「優しく」「美しい」というスローガンの町は、どのように実現していきますか。

町長：３つのスローガンに共通することなんですけれども、やはり私はコミュニティが大切であると思っています。地域の強いつながりがあってこそ、防災にも強いまちづくりができますし、住民にも優しくなれます。美しい町も実現できると思っています。地域福祉が進んでいる地区もあります。そういうところをモデルにして、進めていけたらなと思っております。自助、共助にはやっぱり住民同士の強いつながりということも必要ですので、まずは子どもと高齢者とか、他世代交流して、お互いに刺激しあい、支えあえるようなコミュニティづくりをしていきたい。

鈴木：なるほど。

町長：コミュニティができているから町も美しいんだよとか、住民同士がつながっていれば、いろんなことが自主的にしてもらえるんじゃないか。とにかく、住民同士の強いつながりがしっかりできればいいなと思っています。

鈴木：社会経済が変わる中で、町のコミュニティも変わってきていますね。

町長：そうですね。今、「いきいき百歳体操」というのが全地区に広められて、皆さん一緒に体を動かして、津波のときには逃げる体力をつくりましょうという助け合いが復活してきているような気がするんです。それにサロンをくっつけて、皆さんで介護なんかで、どこも行けなくなっている方を見守れるようになればいいと考えているところなんです。

鈴木：コミュニティ力ですね。

町長：進んでいるところでは、若い人たちが高齢者の大型ごみを収集場所まで持っていってあげる地区があります。

鈴木：地域福祉という面で注目している地域・団体はありますか。

町長：「おせっかいクラブ」ですかね、名称は分からないんですが、区の役員の皆さんがつくられて、夏まつりをしたり小さい子どもから高齢者が一緒に集まる場所をつくる動きが広まってきています。

安心して出産、子育てができるまちへ

鈴木：美浜町は、人口減少、若い世代の流出が続いていますが、和歌山県の平均よりも出生率が低い、未婚女性が多いことも課題になっています。なぜなのでしょうか。

町長：若い人の出会いの場が少なくなってきていることもあると思うんです。とにかく妊娠して子どもを産み育てたら安心できるよという町になれば、結婚にも踏み切れるのかなという思いもあります。だから妊娠期から妊婦としっかりつながって、生まれてくる全員の子どもに行きわたるような施策をしていかないといけないと思っているところなんです。

吉原公園で遊ぶ親子

鈴木：具体的にはどういうことでしょうか。

町長：まず、子育て世代包括支援センターは、２０２０年度末までにつくりなさいよというのはあるので、もちろんそういうセンターを設置して、しっかり、その家族とつながれたら子どもの虐待とかも未然に防げるのかなと。補助金とかではなく、安心して子育てができるような心でつながっていきたいという思いですので、この４月からは、出産されたご家族に自筆でお祝いの手紙を差し上げ、子

育てで困った事があれば保健師に相談してくださいとも記載し、ご家族と心でつながっていきたいと思っております。

鈴木：役場は、一般住民には敷居が高い面があります。

町長：そのように考えまして、まずは、町長室へ来てくださいと広報で呼びかけ、もう何人かのご婦人の方々に来ていただいてお話しております。私を小さいときから知ってくれてる女性たちですので。どんどん増えてきたら本当にありがたいなと思っております。

鈴木：女性の皆さんの声を聞くひとつの方法ですね。

「笑顔を創るまちづくり」は、町長が現職の課長のときに関わった総合戦略だったと思いますが、どう具体化していきますか。

町長：子どもたちが本当に少なくなっている中で、子どもの笑顔が増えればと願っています。子どもの心を育てていくためには、妊娠期からお母さんたちとつながって、元気な赤ちゃん、子どもを産み育てていただきたいというのも1つですし、とにかく子どもたちには、たくさんの経験をしてもらい、多くの人とふれ合ってもらいたい。そうすることで、心が育つと思うんです。子どもたちが大人になっていく過程で、どんな状況にも耐えてもらえるような子どもの心を育てたいという思いがあるんです。

三尾アメリカ村の「カナダミュージアム」

医療費無料化を高校卒業まで

鈴木：子育て支援の政策で、本年度にこれだけはぜひという事業をお聞かせください。

町長：まず、住民の方から多くの声を頂いている子どもの医療費無料は、美浜町は中学校卒業までなんです。18歳までの医療費無料ということを掲げておりましたので、この1年間でスピード感を持ってやっていけたらなという思いはあります。

鈴木：予算の裏付けが大変だと思います。

町民が安心して暮らせるためには産業政策、仕事づくりが重要です。この問題はどうされますか。

町長：昔は、私どもの町は会社員だったり、公務員が多かったんです。だから住んでいただくように住環境整備に力を入れるという、町だったものですから、美浜町から外に勤める方はとても多いです。

鈴木：御坊のベッドタウンですね。その間に産業づくりが進まなかった。

町長：農業、漁業のいずれも、後継者不足で深刻な問題となっています。もうかる産業というのがあれば、後継者問題も解決できるんではないかなと常々思っているんですが、なかなか一朝一夕にはいかないところなんです。農業については、農地の活用支援事業補助金を交付しておりまして、優良農地の保全と耕作放棄地の抑制を図っているところなんですけれども、今後さらに高齢化になってきますから、農作業労力の軽減とか生産性の向上に努めていかなければならないと考えております。野菜花き産地総合支援事業補助金交付もやっておりますが、農業者の生産経営の意欲というのは強く感じているところです。漁業についても、非常に厳しい環境にあると理解しています。それぞれの従事者とつながって、支え合って取り組んでいけたらと思っています。

鈴木：美浜町の農業で特徴的な特産物といいますと。

町長：一番多いのはキュウリです。松キュウリというのは、松葉を堆肥化して、それで育ててるキュウリです。そして松イチゴ、松トマトは1軒ですけど、松キュウリは何軒かの方がやっております。

鈴木：松葉を堆肥にする循環型農業ですね。ブランド化を期待しています。

ところで、美浜町は日ノ岬、三尾、そして煙樹ヶ浜と海岸美と海が魅力の町です。地域資源として、積極的に観光政策に活かしていく、もっと観光に力を入れてみようというお考えはいかがですか。

子ども医療費助成

通院・入院とも	高校卒業まで	御坊市　紀美野町　広川町 有田川町　日高町　日高川町 みなべ町　印南町　すさみ町 太地町　古座川町　北山村
	中学校卒業まで	和歌山市　海南市　紀の川市 岩出市　橋本市　有田市 田辺市　新宮市　かつらぎ町 九度山町　高野町　湯浅町 **美浜町**　由良町　白浜町 串本町　那智勝浦町　上富田町

カフェから始まる人びとの出会いと交流の場

町長：本当にたくさんのお金が落ちるような観光になれば力を入れたいとは思っているんですけれども。

地方創生事業で、吉原地

区の松林の中に建物２つを建てて、一般社団法人の方にそこを任せて、４月14日にフルオープンしました。松林も活かしながら、「松カフェ」をやっていただいています。子育て世代の人を集めたり、カフェをしたり、レストランもそういう方に貸出しながら、いろんなお店が、日に日にオープンをするわけなんです。

鈴木：新たな人びとの出会いと交流が生まれる場に育つ可能性がありそうですね。

町長：カフェは最近増えています。御崎神社から降りてきたところにも新しいカフェができていまして、そこは今人気と聞いています。

松てるわ広場の「松カフェ」

鈴木：アメリカ村の三尾はどうなのですか。

町長：アメリカ村の方は地方創生で、今、ＮＰＯ法人でカナダミュージアム、それとレストラン、ゲストハウスを運営しています。それと子どもたちが英語で案内できるというようなシステムもできつつあるんですけれども、もう少しアピールしていかないといけないなというのはあります。それとクヌッセンのお話はね。

鈴木：その辺のところが観光資源の最大のポイントですか。

町長：カナダミュージアムは、地方創生事業で、ご寄附いただいた建物を補助金で改装しました。

鈴木：美浜町は、きらりと光る観光地になってほしい。カナダ移民の村、三尾村の話はやっぱり大事にしてほしいですね。

地域コミュニティが継続する防災対策

鈴木：ところで、南海トラフの発生の確率も高まっています。海に面した町の防災対策ですが、大きな課題です。

町長：ハード面は、人工的に高台を建設しまして、避難困難地域というのは解消しています。今後も計画しています避難タワー等、避難施設をこの社会情勢を勘案しながらですが、スピード感を持って進めていきたいと思っています。ソフト面につきましては、所信表明でも申し上げたんですけれども、避難行動、要支援者の対策とか、自助、共助、公助について啓発、地域防災計画の強化とか、自主防災会の人材育成、組織強化について支援し、小中学校の防災教育推進とかにも取り組んでいきたいと思っています。南海トラフ巨大地震による当町の浸水域は、町全体の46・1パーセントで、住宅地では約90パーセントとなっていますので、災害発生した場合、１日でも早く復興へ進めるように、今回、和歌山県で最初に、復興に関する事前準備計画というのを策定しました。まず、住宅が浸水しましたら、もう仮設住宅を建てるところを準備してまして、それを地域コミュニティも継続しながら仮設住宅をつくっていくという計画なんです。それを、県と一緒に東京にある自民党の災害対策本部の小委員会に説明に行ってきました。

鈴木：避難場所として大丈夫なのでしょうか。

町長：浜ノ瀬地区に安政の津波のときに、こういうところの高台へ逃げろという碑があるんです。今回そこに高台をつくっています。地区で言いますと新浜地区になります。

鈴木：籔内町政で、美浜町は変わったと、町民に見える形で示す必要があるかと思います。決意はいかがでしょうか。

町長：そうですね、元号も変わり令和になりましたけれども、町長としての１年目でもございますので、とにかく皆さんと距離感をなくして、しっかりつながっていきたい。まずやっぱり子育ての関係で有言実行していきたい。

新浜地区につくられた避難高台

鈴木：妊婦のときからの新しい施策というのは。

町長：産後ケアと言いまして、核家族が増えていますので、子育てに入りますと、どうしても産後鬱という問題も出てきます。そういう人たちを産後ケアしてあげるとか、それと新生児の聴覚検査がありますけれども、それも補助したいと考えています。高校生までの医療費の無料化、これも実現していきたい。

鈴木：本日はありがとうございました。